



本校の授業改善に向けた視点				
内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	学校評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
◆児童一人一人が学ぶ楽しさを実感し、主体的に学べるように、教師は教材の工夫、環境整備、体験的な活動を多く取り入れる。 ◆教科の特質を生かした学習活動を展開する。 ◆算数では習熟度別担当教員を中心に学年の打ち合わせを密にして指導計画を立てる。個に応じた指導の充実を図り、基礎・基本の定着を図る。 ◆水曜教室で、基礎学力の定着を図る。 ◆東京ベーシック・ドリルを活用し基礎基本の定着を図る。	◆朝の学習(馬三タイム:8時25分~8時35分)を活用し、漢字や計算練習、作文指導教材「書くって楽しいね」等を行う。 ◆学期ごとの予定時数を設定し、各教科・領域の指導が適切に行われるようにする。 ◆算数科では習熟度別指導を取り入れ、効果的な指導を行う。 ◆毎週木曜日の朝の学習を活用し、元氣アップタイム(短縄跳び)と、読み聞かせを隔週で実施する。	◆「おおたの未来づくり」をさらに追究する校内研究を実施する。(「馬込大盆踊り大会を盛り上げよう!」など) ◆年3回の管理職による授業観察を実施する。授業後には、指導、助言を受け、授業改善及びに授業力の向上を図る。 ◆若手研修会やOJTを充実させ、教員全体の授業力向上を図る。	◆学校公開等で保護者アンケートを実施し、地域や保護者の願いや思いを受けて教育活動を充実させる。 ◆教科の観点別評価内容について、保護者会等を通じて保護者に説明を行う。	◆学校ホームページ等を活用して、教育活動を積極的に発信する。 ◆保護者会等を通して、家庭での学習習慣の定着に関わる協力を依頼する。(家庭学習の時間は、10分×学年数を目安とする) ◆地域の方々等をゲストティーチャーとして招き、体験的な学習を行う。 ◆体育・健康教育授業地区公開講座や道徳授業地区公開講座を実施する。 ◆夏季休業中に学校運営協議会と連携を図り「馬三わくわくスクール」を開催する。